

# ばぶよち ぴょん!

～子育て支援のページ～  
Vol.15

今回は「毛呂山町児童館」を紹介します。児童館は、川角中学校の向かいにある、ピンク色の建物です。卓球やトランポリンがあるので、雨の日も子どもたちが遊べます。もちろん外用の遊具もたくさん！毎月、幼児や小学生向けのイベントをたくさん開催しています。

あそびに  
きてね



遠足に行ったり  
もします



人気のトランポリン

おもちゃもたくさん



外の遊具も充実



幼児クラブ

対 3～4歳児と保護者  
室内あそびや読み聞かせなど



ぴょんぴょん広場

対 2歳児（前後）と保護者  
体操や工作、体育あそびなど

場 / 川角 449-4 日 / 平日 9:30～12:00、13:00～17:30 問 / ☎(295)4111  
※イベントや幼児クラブなどの開催日は、広報もろやまの「子ども広場」コーナーや、毛呂山町 HP 子育て支援のページ（[毛呂山町 子育て支援](#)）をご覧ください。

## みんなの 声

- ・子どもがトランポリンを気に入っていて、いつも遊んでいます(1・3歳児ママ)
- ・小さい子どもといっしょに行けるバス遠足や運動会などのイベントがあって、子どもも大人も楽しめます(4歳児ママ)
- ・家庭ではなかなか出来ない工作が楽しめます(2歳児ママ)



## 毛呂山歴史散歩 第255回 戦時中の出来事 木や金属の供出

太平洋戦争終盤、日本は、武器の生産に必要な資材、特に金属や木材などを集めるため、国民から様々な物品を回収しました。

昭和16年（1941）に『金属類回収令』が施行され、「家庭鋤脈」を文句に、火鉢や鉄瓶、お釜、おもちゃ、時計の鎖、煙管、バックルなどの家庭用品から官公庁の門扉や鉄柵、寺院の梵鐘など、ありとあらゆるものが回収されました。なかには、線路が回収されて単線化した路線もあります。

毛呂山町でも、延命寺（下川原）の梵鐘をはじめ、数多くの金属製品が回収されました。

また、切迫した軍船不足を補うために木造船を増産しようと、昭和18年（1943）に『木造船建造緊急方策

要綱』が策定され、国民は木材の供出をも迫られました。県内でも、ケヤキ、カシ、マツ、スギ、ヒノキ、ヒバ、モミ、ツガが、山林だけではなく屋敷林などからも供出されました。

当時の毛呂山町長、平山庫治も、自らの屋敷に立ち並ぶ樹齢300年といわれたケヤキ林を伐採し、率先して供出に協力しました。

しかし、戦争のためとはいえ、家を見守りつづけてきた木々を切り倒してしまうのは忍びないことでした。平山庫治もその一人で、写真を撮ったり、画家を招くことで、消え行く風景を残そうとしたそうです。

戦争は、人の生命だけでなく、日々の生活や思い出までを破壊します。今年には太平洋戦争が終結して70年。戦争が無かったら、現在の毛呂山町の風景も、少し違ったのでしょうか。



金の売却を推奨するポスター（昭和14年（1939）発行）